

知的障害特別支援学校高等部における卒業後を見据えた学びについて III

卒業生への生活状況調査を通じて得られた結果からの考察

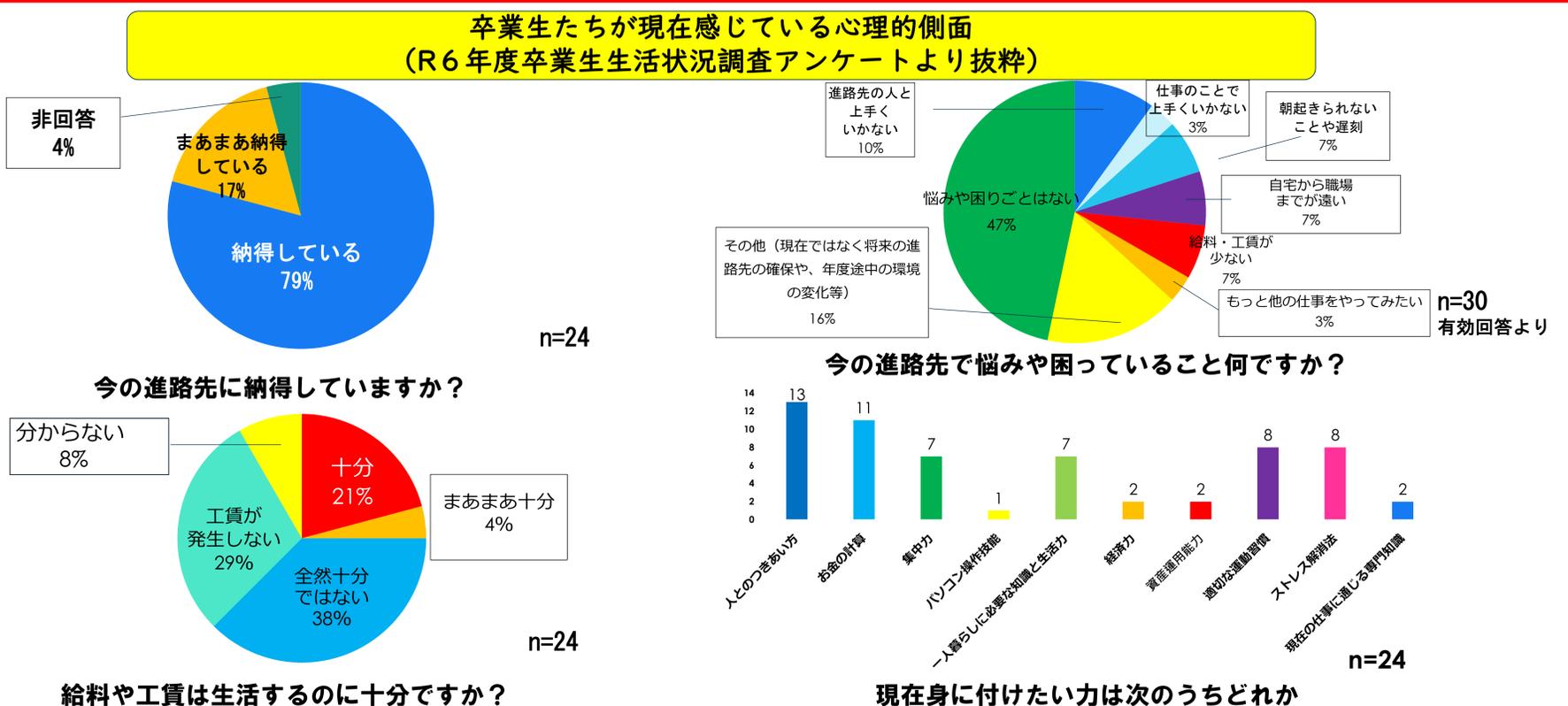
キーワード：卒業後、生活調査、知的障害特別支援学校、進路選択、ライフステージ

研究目的

- 知的障害特別支援学校の高等部段階では、進路選択は重要なファクターとなる。
- 進路指導・支援やキャリア教育に関する研究は、一人ひとりの社会的、職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促すというキャリア教育的観点によるものや、学校組織における進路指導部を中心とした構造的な在り方の分析を扱った研究は多く見られる。
→高等部卒業生を対象に卒業後を踏まえて高等部時に必要だった学びについて検討した研究は多くは見られない。高等部卒業生への生活状況調査を実施することで、現在の困難さ等の実態を明らかにし、高等部の教育課程に反映することが今後必要であると言える。
- 本研究では、高等部卒業生への生活状況調査を通して、知的障害特別支援学校高等部における卒業後を見据えた学びを検討することを目的とする。

研究方法

- 1. 対象**
2018(平成30)年度から2023(令和5)年度までの本校卒業生29名を対象に実施。
- 2. 調査項目**
菅野(2012)の提唱する「生涯発達・地域生活支援の4領域」をもとに「職業・仕事」、「生活・暮らし」、「余暇」、「健康」の4領域を軸に進路変更や、コロナ禍以後の業務内容の変化、AIによる仕事や生活への影響等を加えた52の質問項目を作成した。これらを「令和6年度 卒業生生活状況調査アンケート」として実施した。
- 3. 調査方法**
対象者に対して、郵送にてアンケートを送付し、それに回答してもらう形式で実施した。これらに加えて、複数名にインタビューを実施した。具体的な方法としては、本校卒業生の中から抽出した複数名に対して、「職業・仕事」、「生活・暮らし」、「余暇」、「健康」の4領域に対して質問項目を設定し、一つの質問項目に対して概ね4~12択の選択肢を設け、その中から選んで回答するという方式を採用した。また、設問によっては記述欄を設けることで、補足的な説明を可能とした。なお、自力での回答が難しい卒業生に関しては、保護者や協力者に回答の協力を依頼した。
- 4. 調査時期**
2024(令和6)年10月から12月で実施した。
- 5. 手続き**
アンケート結果を基に、各質問項目を単純集計し、グラフ化した。
- 6. 倫理的配慮**
本研究は2023年10月27日付で大阪教育大学倫理委員会より承認(受付番号:23086)を受けて実施。対象卒業生及び、未成年の場合その保護者に研究について説明を行い、研究参加への同意を得た。



考察

- 【アンケート結果より】※以降、昨年度研究 迫田,今枝(2024)との比較から
- ・「現在の進路先に納得しているかどうかについて」納得しているが79%に増加し、「まあまあ納得している」が17%に増加した。半面、「あまり納得していない」、「納得していない」の割合が消失した。また、「今の進路先で悩みや困っていることはあるかについて」の問いでは、「全くない」が36%から62%と大きく増加した。逆に「少しある」、「まあまあある」の割合は10%程度減少した。このことから卒業生たちの進路変更が上手くいった、あるいは悩みの種を克服したことにより「全くない」に転じたことが推察される。
 - ・「給料や工賃は生活するのに十分かどうか」について、十分と回答したものが16%から21%に増加し、「全然十分ではない」が47%から38%に減少したことから先述の通り「進路先の変更」が上手くいったことにより、安定した収入を得ることができたものが増加したと考えられる。
 - ・「現在身に付けたい力」については、「人とのつきあい方」、「お金の計算」、「一人暮らしに必要な知識と生活力」に加えて、「集中力」、「適切な運動習慣」、「ストレス解消法」などのニーズが高かった。結果より、高等部のカリキュラムとして適切な補強を行うべき事柄は、「社会科領域」や、「キャリア教育領域」、「保健体育領域」、「家庭科領域」、「情報分野領域」の取り組みの充実に加えて英語や美術・芸術領域に関するカリキュラムの補強が挙げられる。また、セカンドキャリア以降の進路先の探し方についても伝えていく必要がある。
 - ・対人関係やプライベートの充実に関しては、昨年度同様、ごく狭いコミュニティの中で限られた人間関係の中で生活している傾向が見られた。また、「現在SNSを利用しているかどうかについて」は、半数以上の54%が利用しており、そのうちのさらに半数以上が「LINE」を利用している。「TikTok」や、「Instagram」、「X(旧Twitter)」の利用については少数にとどまった。このことから卒業生たちはある程度SNSの利用に関するリスクを理解しており、「LINE」による身近でよく知った間柄に利用を留めているのではないかと考えられる。
- 【今後の課題として】
- ・AIやロボットなど社会の変化に関する正確な情報を提供しつつ、『卒業生たちにとってより良い人生とはどういったものなのか』をさらに掘り下げるアプローチが必要である。

引用・参考文献(主なものを抜粋)

- 中央教育審議会(2011) 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)
- 文部科学省(2015) 特別支援教育の現状と課題 教育課程企画特別部会 資料3-3
- 片山陽子・今枝史雄(2020) 知的障害児の成人期を見据えた教育課程・教育内容の検討 障害児教育研究紀要 = Special needs education research (42), 69-80,
- 迫田真喜・今枝史雄(2024) : 知的障害特別支援学校高等部における卒業後を見据えた学びについてII-卒業生への生活状況調査を通して- 大阪教育大学附属特別支援学校 研究紀要 71-78